



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

はとの子だより

No. 3 令和6年5月15日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

学年・世代・地域の垣根を越えて



たんけんバッグを首から下げて、1年生が校内を歩き回っていました。5年生の教室の前でモジモジしている女の子がいたので声を掛けたところ、5年生の先生に聞きたいことがあるとのこと。仲介してあげたところ授業中の5年の担任に「どうしたら頭がよくなりますか？」と質問しました。聞かれた先生は驚くでもなく、少し考えてから丁寧に答えました。興味深かったのは、それを5年生の子どもたちが静かに、真剣な顔で聞き入っていたことです。担任が回答している手前、その内容に見合う姿をかわいい後輩に見せなければ、と居住まいを正したように思いました。

それから少しして、2年生が校内を歩き回るようになりました。毎年恒例の、2年生と1年生による学校探検を中心としたなかよし交流集会の準備のようです。副校長室にもやってきて、「久しぶりに見た」と感慨深げな表情をしています。1年前の学校探検で入って以来、一度も入ったことがなかった子がほとんどです。1年生を連れて歩くために改めて校内各所を見直したことで、新たな発見も多かったようです。

副校長室では、高さ50cmほどの裸婦像が気になるようで「副校長先生、これ好きなの？」とデヘデヘしていました。「好きかどうかは別として、昔から置いてあるものだよ。」と答えましたが全く聞いている様子はなく、像の隅々を眺め回していました。そして、肝心なところには気付かずに、もう一度デヘデヘ笑って副校長室を後にしました。

学校の沿革を紐解くと、本校は昭和44年に教育書の老舗である明治図書から『思考の指導過程』という本を出版しています。肝心なところとは、裸婦像の底面に記された「図書発刊記念 昭和44年5月1日 原作者 三浦金之助校長」の表示です。学校の研究成果を世に問う図書を出版することと、裸婦像を制作して記念に贈呈することとの関連について考えてみました。人間の本质についての探究、美の追究など、様々な意味付けができそうです。いずれにせよ、デヘデヘしている2年生のおかげで過去の先輩たちの熱意や業績の偉大さに思い至り、こちらは襟を正した次第です。

その2年生は、ただデヘデヘしていたわけではありません。1年生が部屋の名前を分かるようにと、各所にひらがなで書いた表札を作成し、担当者に許可をもらいながら貼り回っていました。「どこに貼りますか」と尋ねると、「ここ？こっち？」と試行錯誤しています。そのうち「1年生の目の高さぐらいがいいよ」「ここだと素通りして気付かないかもしれないよ」「ここは隣の部屋と区別できるように貼らないとね」など、1年生目線で考えながら貼る場所を精査していました。



それから数日して、「手をつなごう仲間！集会」が開催されました。新たに仲間に加わった1年生を、異学年縦割りの「わくわく班」集会と全校集会の2本立てでお祝いして迎える会です。



今年の学校行事は、高学年を中心に「150」縛りが施されるようです。毎年恒例の「じゃんけん列車」も、「150人以上の列車を目指そう」というタスクが課されました。見事に一組だけ150人以上を達成できたことで、アリーナ中に歓声が響き渡りました。こういった小さな演出でも、大きな一体感や高揚感が得られます。

学校の歴史をクイズにした問題でも、「駅伝大会を行ったことがある」「かつて相撲部があった」など、先生たちも迷うような問題が出題されました。それらを調べ上げた6年生の情報収集力に驚かされるとともに、かつての先輩たちの取組から「いろいろなことが可能なんだ」という期待感をもつきっかけにもなったように感じました。

6年生は、150周年記念運動会の企画、150周年記念映画制作やものづくり、修学旅行に向けた様々なワークショップ体験など、マルチタスクでフル稼働しています。

先日は、PTA総会でも業務紹介でご挨拶にいらした株式会社アウトクropp代表の栗原さんと和田さんをお迎えして、秋田に根差し、映像でメッセージを発信することの意義についてお話をうかがいました。6年生の一部の子どもたちは、ゆくゆくはアウトクroppさんにご指導いただきながら、150周年記念の映画制作に取り組みたいという願いをもっています。身近なところに、映像制作を通して秋田のよさを伝えようとしている会社があることに気付いた子どもたちが、自分たちで電話を掛けてアポを取り、学校にお招きしたのでした。



その後、アウトクropp制作のドキュメンタリー映画を特別にデータでご提供いただき、学年で視聴することもできました。子どもたちは、その映像に食い入るように見入っていました。「映像には、短時間でストーリーを伝える力があります」と栗原さんは仰いました。6年生の子どもたちが、150歳の学校に埋もれている素敵なストーリーをアウトクropp（発掘）してくれることを願っています。

6年生の取組のもう一つ、150周年記念運動会に向けた全校表現運動の創作では、教育文化学部の松本奈緒先生から表現運動の基本をご指導いただきました。できあがった全校表現運動は、各学年に伝承され、長く学校の恒例行事となることが期待されています。

学年・世代・地域を越えた学びがダイナミックに展開していく中で、学校の150年の歴史に眠っていた事実が目を覚ましています。その事実に感化されて、自分たちのいまやこれからを見つめ直すきっかけをいただくことが増えました。

